

2016年10月31日  
日本板硝子株式会社

### 2017年3月期第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 2017年3月期の業績予想に用いている想定為替レートはどのようになっていますか？
- A: 現在の為替レートです。例えば、ドルであれば104円/ドル程度。
- Q: 為替の感応度はどうなりますか？
- A: 全通貨が円に対して一律に10%変動したと仮定すると、損益への影響は数十億円程度です。
- Q: 売上予想を下方修正したのに利益予想は据え置いた理由と利益率が改善する要因を教えてください。
- A: 売上に占めるVA(付加価値)製品の増加や製造の効率改善が、想定以上に進んでいる地域があるためです。また、期初には計画していなかったコスト削減等の追加施策を期中で織り込んでおり、その効果も見込めます。
- Q: 欧州や北米における建築用ガラスの価格動向はどのようになっていますか？
- A: 一般的な汎用フロートガラスについて、前年同期比で約10~15%の改善が見られます。
- Q: 高機能ガラス事業の損益は第1四半期から第2四半期にかけて改善していますが、ディスプレイ事業の損益も改善していますか？また、薄板ガラス glanova® の販売状況について教えてください。
- A: 高機能ガラス事業では、バッテリーセパレーターやグラスコードなどが堅調で業績を後押ししています。glanova® の販売は計画に沿って、お客様での品質試験や認証を進めている段階です。一部既に製品出荷が始まっているものもあり、今後大きく販売を伸ばすべく引き続き計画を進めていきます。
- Q: 中期経営計画(MTP)の期間を、当初想定4年間から今回6年間へと変更しましたが、後半3年間(2018年3月期~2020年3月期)の経済環境等をどう見ているか教えてください。
- A: 経済環境については、北米・欧州は、更なる悪化や逆に大きな成長も織り込まず、回復するという見方をしています。南米は現在の低迷が続く前提で考えています。為替は直近の数字を用いており、一方原油価格は若干上昇する傾向で計画に織り込んでいます。売上拡大のためには新商品の投入は重要であると考えていますが、高機能ガラス事業の一部では顧客や市場の立ち上がり計画よりも後ずれしている分野があり、これらは織り込んで修正しました。
- Q: VA製品の売上拡大や、新製品投入にはキャッシュが必要と思いますが、それはどうやって確保する計画ですか？
- A: 建築用ガラスや自動車用ガラスでは、既存の設備があり大きな設備投資は必要ではありません。高機能ガラスは本来それほど大きな設備投資を必要とするものではありません。しかしながらキャッシュの制約はありますので、選択と集中は必要と考えています。

Q: MTPではグループ全体で営業利益率(ROS)8%以上を目標としていますが、どの事業で今後 ROS を伸ばす計画ですか？

A: 建築用ガラスは、全体ではすでにある程度の水準に達していますが、地域によってはまだVA 品比率の増加の余地が大きいところがあります。自動車用ガラスは、補修用ガラス市場の拡大などでまだ利益率改善の余地があります。高機能ガラスではディスプレイ事業の改善により利益率を上げていく計画です。

Q: バランスシートが悪化していますがどのように改善させていく計画でしょうか？

A: 課題として認識しており、引き続き、MTP フェーズ 2 施策を着実に実行すること、それを通して事業収支を改善することにより、バランスシートの強化を図っていきます。また、今後ともいろいろな選択肢は検討していきたいと考えています。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(欧州、日本、北米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。